

地域を担い、未来を生きる力を備えた生徒の育成

《令和7年度前期との比較》

※評価方法は裏面に記載

＜視点1＞【安全・安心に学べる学校】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
<p>ア いじめ・不登校のない学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に主体的な活動によるいじめのない学校づくり 生徒理解の会・アンケート(毎月)、Q-U調査(年2回)の実施と早期対応 <p>イ 安全教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルの共通理解・改善 計画的な避難訓練等防災教育の実施 安全点検(毎月15日)の確実な実施と早期改善 <p>ウ 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別の教科道徳を要とした道徳教育の推進 指導方法の改善と評価の工夫 <p>エ 体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体力アップ1校1プラン」の実施(各個人の目標を持たせる) <p>オ 学校給食を核とした「食育」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 食教育の実践及び〇〇給食の実施 食物アレルギーへの組織的な対応 	生徒	学校は楽しい。	96%	➡	a	4	<p>○「学校は楽しい」と感じる生徒の割合は96%である。△保護者は86%が「子どもが楽しそうに学校に行っている」と回答しており減少した。→不安を抱えていたり、支援を要する生徒へのサポートが必要である。</p> <p>○「自分にはよいところがある」と回答した生徒の割合は83%と増加した。→体育祭や文化祭などの行事への取り組みや振り返りを通して互いの良さを見つけ、自己有用感を感じた生徒が増えたためだと考えられる。</p> <p>○「学校のきまりを守って、生活している」と感じる生徒の割合は98%である。学校のきまりを理解し、安全に生活しようとしている。</p> <p>○保護者「学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。」が100%である。</p> <p>→計画的に、いじめの未然防止に努めることができたからではないか。(生徒アンケート、保護者アンケート、個人面談、SCとの連携)</p> <p>○災害に備えた安全指導を行うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> QUの結果などをもとに支援を要する生徒と個別の面談を実施したり、様々な教育活動の中で意図的に他の生徒との関わりを多く持つ機会を設定して安心感を持たせる。 クラスや部活動、委員会などの縦割りでの活動などを通して、存在感や有用感を持たせるように継続して支援していく グループエンカウンター等、SCと連携しながら、より良い人間関係の構築ができるようにしたり、お互いや自分のよさを認め合う活動を計画的に取り入れていく。
	保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	86%	➡	b	3		
	生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	94%	➡	a	4		
	生徒	自分にはよいところがある。	83%	⬆	b	3		
	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	96%	➡	a	4		
	生徒	学校のきまりを守って、生活している。	98%	➡	a	4		
	教員	学校は、生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	➡	a	4		
	生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	98%	➡	a	4		
	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	100%	➡	a	4		
	保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	94%	➡	a	4		
	教員	学校は、生徒同士よりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4		
	教員	学校は、生徒の小さな変化に気づいたときには、すぐ行動している。	100%	➡	a	4		
	保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	96%	➡	a	4		
	教員	学校は、定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	100%	➡	a	4		

3.9

＜視点2＞【確かな学びを保障する学校】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
<p>ア 松波中スタンダードの実践と改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に沿った確実な指導と、実践に基づいた計画への改善 <p>イ 学力向上ロードマップ・プランに基づく学力向上の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 対話的で深い学びへの授業改善 シンプルな学校研究の推進 家庭学習の量と質の改善 家庭と連携した基本的な生活習慣への改善 <p>ウ 授業力向上の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人年2回以上の公開授業及び研究授業の実践 指導技術の系統化 ICT機器の効果的活用 <p>エ 海洋教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 「海洋教育推進事業」の計画的な実施 SDGsを意識した体験活動の推進 <p>オ 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門相談員等の活用 校内支援委員会の定期的開催 	生徒	授業の内容はよくわかる。	96%	➡	a	4	<p>○96%の生徒が「授業の内容はよくわかる」と回答した。</p> <p>△「お子さんは、授業の内容がよくわかると感じている」と回答した保護者の割合が68%となった。</p> <p>→保護者は、「授業がわかる」ということをテストの点数で判断していると思われる。授業での頑張りの発信が重要である。</p> <p>△77%の生徒が「自分の考えを根拠や理由をつけて伝えた」と回答した。</p> <p>→100%の教員が、授業改善をすすめていると回答しているが、生徒は、自分の考えを根拠や理由をつけて伝えていないと実感できていないと考えられる。また、生徒に伝える力が身につけていないと考えられる。</p> <p>△「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。」と回答した生徒の割合が58%と低い結果であった。</p> <p>△「お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。」と回答した保護者の割合が5%上昇したが、依然42%と低い結果であった。</p> <p>→家庭学習への取り組み方への指導の成果が少しずつ見られているが、引き続き指導が必要である。</p> <p>△「お子さんは生活リズムを意識して過ごしていますか。」と回答した保護者の割合が70%と前回より減少した。</p> <p>→生徒の約8割が「5定点を守れている」と自己評価する一方、保護者の評価は約7割に留まっていることから、生徒の自己認識と家庭での生活実態に差が生じている可能性がある。また、生活リズムの自己管理が難しい生徒への支援が必要である。</p> <p>△生徒がインターネット(スマホ)を使用している時間が長いという結果であった。</p> <p>→家庭学習に取り組む時間、インターネットを使用する時間、5定点を守って生活すること、インターネットの使用と成績との関連への理解が必要である。さらに自律的な家庭生活の改善に向けた指導を、家庭と連携しながら引き続き行っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コンテストなどの取組で、苦手な生徒に対して、個別指導を行う等、教科担当者と担任が連携して、コンテストに向けた取り組みを行う。 授業で学んだことを身につけさせるために課題を必ず提出させる。 保護者面談等での説明を行う。 授業で生徒が根拠や理由を伝える場を設定し、生徒が実感できるように授業改善をさらにすすめていく。
	保護者	失敗してもあきらめずに、粘り強く取り組もうとしている。	88%	➡	b	3		
	保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	68%	➡	d	1		
	教員	私は、個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	100%	⬆	a	4		
	教員	私は、分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の効果的な活用に努めている。	100%	⬆	a	4		
	生徒	自分の考えを根拠や理由をつけて伝えた。	77%	➡	c	2		
	教員	私は、言語活動を重視し、生徒に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	➡	a	4		
	生徒	授業の課題に対して、意欲的に取り組むことができる。	88%	➡	b	3		
	生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1年60分、2年70分、3年80分)	58%	➡	d	1		
	保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。	42%	➡	d	1		
	教員	私は、普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	100%	➡	a	4		
	生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝昼夕食・就寝の時刻)	81%	➡	b	3		
	保護者	お子さんは、生活リズムを意識して過ごしていますか。	70%	➡	c	2		
	教員	学校は、五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝昼夕食・就寝の時刻)	100%	⬆	a	4		
	生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:1時間未満 B:1時間～1.5時間未満 C:1.5時間～2時間未満 D:2時間以上)	44%	➡	d	1		
	保護者	お子さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	42%	➡	d	1		
	教員	学校は、ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	90%	➡	a	4		
	生徒	学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	90%	➡	a	4		
生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	96%	➡	a	4			
教員	生徒ががんばったことをほめたり、認めたりしている。	100%	➡	a	4			
保護者	学校は、お子さんががんばったことをほめたり、認めたりしていると思いますか。	92%	➡	a	4			

3.0

＜視点3＞【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】								
具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
ア 業務改善の取組推進 ・校務分掌の明確化、平準化と効率的な取組への改善 ・事案決定システムの改善 ・定時退校日(毎週水曜日) ・最終退校時刻(午後7時) イ 若手早期育成プログラムの実施 ・計画的な実施と内容の改善 ウ 服務規律の向上に向けた取組推進 ・日常的な服務規律に関する具体的な指導と徹底	教員	学校は、教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡	a	4	△「私は、業務の効率化をすすめ、午後7時までに退校するよう努めている。」と回答した教職員の割合が、70%となった。 →業務が忙しくなる時期と部活動の大会の時期が重なり、目標時刻までに退校できないのではないかと。	・部活動顧問の複数配置を有効活用する。 ・目標退校時刻は、浸透しているので、My定時退校日を月に1回以上決めて、それぞれが見通しをもって業務に取り組む。
	教員	学校は、PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	100%	➡	a	4		
	教員	校内・校外の研修に積極的に参加し、教師としての力量が高まるよう努めている。	100%	➡	a	4		
	教員	私は、業務の効率化をすすめ、午後7時までに退校するよう努めている。	70%	➡	c	2		

3.5

＜視点4＞【地域社会の一員として信頼される学校】								
具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策	
ア「地域学習」の充実 ・公民館等の地域と連携した体験活動の推進 ・まちの先生を活用した教育活動の企画と実施 イ 家庭や地域とのコミュニケーションの促進 ・定期的な学校公開 ・学校評価、学校関係者評価の実施と活用の充実 ・学校だより等の配布、HPIによる情報発信	生徒	家族や地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	96%	➡	a	4	○「お子さんは、すすんであいさつができていますか。」と回答した保護者の割合が前回の88%から94%と上昇した。 →行事や大会などで地域の方や保護者への挨拶、姿勢が良かった。 △保護者は、地域と連携した体験活動に進んで取り組んでいると感じているが、生徒のふるさと学習に対する積極性や関心度が下がっている。 →海洋学習の一環として行っている体験活動と地域学習が繋がっていない生徒がいると思われる。 →関心度の高い生徒と、自分の興味のないことには無関心な生徒が増えているように思われる。 ○学校だよりやホームページで定期的に情報発信することができた。	・挨拶の意義について継続的に指導していく。 ・すすんで挨拶できている生徒を全職員で認めて、褒めていく。 ・海洋学習だけでなく、様々な体験学習を行う前に、地域学習としての意識づけや意義などを指導してから取り組むだけでなく、事後指導も確実に行っていく必要がある。 ・若プロ等を通して、教職員にも活動の意義や目的、系統性を確認し、前年度踏襲の活動にならないようにする。
	保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	94%	➡	a	4		
	生徒	地域やふるさとについての学習に積極的に取り組んでいる。	75%	↓	c	2		
		地域の出来事に関心がある。	77%	↓	c	2		
	保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	86%	↓	b	3		
		学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	98%	➡	a	4		
	教員	地域の教材・人材を計画的に授業に取り入れている。(予定である)	100%	➡	a	4		
	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていますか。	92%	↓	a	4		
		学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	94%	➡	a	4		
	教員	学校は、地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	➡	a	4		

3.5

＜アンケート集計から自己評価までの流れ＞
 ① アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒ a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒ b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒ c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒ d
 ② ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、平均を出す

③ 以下の基準で平均値から自己評価を行う
 平均が3.5以上 ⇒ A
 平均が3.0～3.4 ⇒ B
 平均が2.3～2.9 ⇒ C
 平均が2.3未満 ⇒ D

➡ 5%以上増えている
↑ 10%以上増えている
↓ 5%以上減っている
➡ 10%以上減っている

・得意なこと、不得意なこと、あるようですが、得意な分野で賞をいただいたり、教室に掲示してもらったり、些細なことが嬉しいようで伝えてくれます！いつも子供のことを気にかけていただきありがとうございます！
 ・仮設の人達とのつながりがあればお年寄りを大事にする心、地域を守っていききたいみたいな気持ちが芽生えると思います。あと、祭りを残していくために色々な所で祭り要素をいれればより活気づくと思います。
 ・ご心配をおかけして申し訳ありません。いつもありがとうございます！
 ・いつもありがとうございます。また、よろしく願っています。
 ・先生方やお友達からも親切や思いやりを感じています。これからもよろしくお願いします。

【学校関係者委員会（2月18日）からのご意見】

・「楽しそうに学校に行っている」の割合が減ったのはなぜか。思春期でいろいろあるのかもしれないが。
 →【回答】
 ・休みがちの子もいて地震の影響もあると考える。SCと連携しながら支援を行っているが、実態把握が不足していたかもしれない。1年生は3学期にSCの面談を実施した。今後もSCと連携しながらやっていく必要がある。

・インターネットの時間が長い、長いという感覚は、人それぞれである。1.5時間は肯定的な答えになっているが、それは長いのではないと思う。使用時間について家庭でのルールと学校でのルールがかけ離れているのではないかと。できるだけそろそろように取り組んでいく必要がある。あれもこれもというより、学校とルールの共有を図りながら、家庭での使用であるので、家庭でのルールを守る方が良い。また、D2時間以上は、いったい何時間なのか調べる必要がある。現代では、4人に1人はネット依存の疑いがあるとされている。Dの人たちは、ネット依存になっていないか心配である。最終的には、家庭のルールを守ることになる。保護者と話し合っ決めて、守られなかったらどうするかまで話し合っ決めておく。無理やり決めても逆効果であり、決めたことは、親は毅然とした態度で取り組んでいく必要がある。保護者の方で困っている人がいたら、学校はアドバイスをする必要がある。
 →【回答】
 ・小学校でもメディアコントロールの指導をしていると思う。既に小学生からスマホを持っている生徒が多いので、入学してすぐ、1年生で確認する必要がある。
 ・学校では、定期テスト前に、学習時間とメディア時間を調べている。そのときは、気をつけようとしている生徒が多い。早いうちに家庭のルールを決めたら、フィードバックしていく必要があった。

・若手の先生方が増えているが、若手の先生方への指導はどうなっているのか？
 →【回答】
 ・若プロという時間を時間割の中に組み込み、定期的に若手の先生方へ指導・助言する時間をとっている。
 ・時間外勤務時間について、県の目標は、「時間外勤務時間が月80時間をこえる教職員ゼロを目指す」となっている。中学校は部活動の時間外が多い。先生方には、部活動の複数配置を有効活用したり、業務に見通しをもって計画的にすすめたりすることを伝えており、平日の業務を見通しをもって取り組んでいる。

・部活以外の校務で大変なことがあるのか。
 →【回答】
 ・「学校がすべきこと」は、これまで通り取り組み、次年度は、地域や保護者の方に朝のあいさつ運動や交通指導などへの協力をお願いしようと考えている。

・いじめはなくならないかもしれないが、小中学校では、いじめが無いにこしたことはない。今年度、体育祭や文化祭など参観させていただいたが、男女仲が良く、協力しながら楽しそうに活動している姿をみる事ができた。今後も、生徒が安心して学校生活を送ることができるように、先生方も引き続き頑張っしてほしい。